

# 名演奏家にして名伯楽 小栗まち絵と 世界に羽ばたく6人のアーティスト

— 2018年2月23日・クラブ関西 —



出演者全員でヴィヴァルディ「四季」より「春」を演奏



小栗まち絵さん

## 若手演奏家の超絶技巧を間近で堪能

大阪・関西を拠点に活動する優れたアーティストを紹介し、アーティスト支援の輪を広げることを目的としたアート・アSEMBリー（関西・大阪21世紀協会主催）。第9回を迎えた今年には、いずみシンフォニエッタ大阪第37回定期演奏会におけるソロ演奏で平成28年度の大阪文化祭賞・最優秀賞を受賞したヴァイオリニストの小栗まち絵さんと、国内外で活躍する新進気鋭の若手アーティスト6名による弦楽アンサンブルが披露された。

小栗さんは、古典から現代作品まで幅広く取り組み、ソロ、室内楽、オーケストラリーダーとして活躍。また日本屈指の指導者として夫の故・工藤千博さんとともに大阪から国内外で活躍する優れたヴァイオリニストを多く育ててきた。

この日は小栗さんの受賞をお祝いして、教え子であるヴァイオリンの周防亮介さん（メニューイン国際音楽アカデミー在学）、松岡井菜さん（ウィーン国立音楽大学在学）、芝内もゆるさん（相愛大学音楽学部2回生）、前田妃奈さん（豊中市立第一中学校3年生）、チェロの芝内あかねさん（相愛大学音楽学部4回生）、ピアノの田口友子さん（相愛大学非常勤講師）が、ヴィヴァルディ「四季」やブラームス「ハンガリー舞曲」など独奏も含めて8曲を披露。小栗さんは今回のアート・アSEMBリーのためにオリジナルの編成を用意し、バルトークの「二重奏曲」は五重奏曲として、サラサーテの「ツィゴイネルワイゼン」は、ソロパートもオーケストラパートも出演者全員が交代で競演・共演した。参加者は西欧のサロンを思わせる会場で、若手演奏家の超絶技巧を間近で聴き入った。



小栗まち絵さんと佐々木洋三専務理事の対談

幕間には小栗さんと当協会の佐々木洋三専務理事との対談が行われた。小栗さんは教え子たちとの共演について「受賞の理由の一つに大阪で相愛大学を軸に音楽教育に長年携わってきたことがあげられた。私自身、優秀で才能のある生徒たちと一緒に音楽の道を歩むことは大いなる喜び」と笑顔で語った。また、佐々木専務から演奏家を目指す若者の指導について聞かれ、「本人が好きで、やりたいという強い意欲と努力があれば、（演奏技術の）飲み込みも早い。いずれは私を追い越してくれるだろうと期待する」と答えるなど、小栗さんの温かい人柄にも触れることができた。終演後は懇親会を開催、出演者と参加者の交流がさらに深まる素晴らしい一夜となった。

小栗まち絵さん：1971年桐朋学園大学を卒業。日本音楽コンクール第1位（1968年）、ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクール特別賞（1972年）、エヴィアン（現・ポルドー）国際室内楽コンクール第1位大賞（1976年）、エクソンモービル音楽賞（2004年度）、大阪芸術賞特別賞（2007年度）、大阪市民表彰（文化功労部門）（2009年度）など国内外の栄えある賞を数多く受賞。現在、いずみシンフォニエッタ大阪ソロコンサートマスター、相愛大学名誉教授、東京音楽大学特任教授。



周防亮介さん



松岡井菜さん



田口友子さん



芝内あかねさん



芝内もゆるさん



前田妃奈さん